

ミコライウ州・兵庫県 リモート知事会議

○ミコライウ州：ヴィタリー・キム知事と兵庫県：齋藤元彦知事がリモートで意見交換を行い、カウンターパート方式による支援に合意し、「**創造的復興の理念に基づく復興支援に関する覚書**」を締結した。

- 1 日 時 令和5年12月4日(月) 16:00～17:00
- 2 ウクライナ側 ヴィタリー・キム ミコライウ州 知事 等5名
- 3 兵庫県側 齋藤 元彦 兵庫県知事、
岡部 芳彦 検討会座長、ナディヤオブザーバー、
危機管理部、福祉部、産業労働部、病院局 等
- 4 主な意見



覚書の概要

1. 両者は、**兵庫県が提唱する「創造的復興」の理念に基づきパートナーシップを確立することにより協力することに合意。**
2. 兵庫県は、**早期に着手する支援として「ミコライウ州の専門人材の受入研修」について協力。**当座は「**義肢装具リハビリテーション**」分野から実施。
3. **その他の支援の内容・実施方法等**についても、両者は継続して検討・協議を行う。
(**水道施設整備のノウハウ、子どもへの防災教育、留学生の受入・交換等**)
4. 両者は**それぞれの中央政府に必要な働きかけや調整を実施。**



区分	主な意見等
ウクライナ側	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校、橋、道路、水道・電力施設、空港、鉄道などインフラ設備が多く破壊された。 ◆ 義手・義足は国を通じてたくさん購入しているが、品質やメーカーが様々であり、使いこなせない。専門家の育成を支援してもらいたい。 ◆ ミコライウ州はIT・研究が盛んだが、日本よりは遅れている。日常の様々なIT技術も教えてもらいたい。
兵庫県側	<ul style="list-style-type: none"> ◆ まちづくり・復興のプランニングについてはお役に立てる。震災からの復興計画の概要を提供する。 ◆ 法・制度上の課題は多いと思うが、オンラインでの図面のチェック等インフラの設計ノウハウの提供も協力できる可能性がある。